

第6回 京都市ごみ収集業務の在り方検討会議 会議録

日時 平成26年3月13日(木) 15時～15時50分
場所 ホテル本能寺 雁1・2会議室
出席者 本多会長, 中井委員, 福岡委員, 村瀬委員, 横井委員

内容

1 開会

2 議題

今後のごみ収集業務の在り方に関する意見<最終まとめ>

- ・事務局から資料1について説明。

(委員) 全体的にこれまでの議論を反映してまとめていただいている。ただし、ところどころ一文が非常に長いところがあり、どこを一番言いたいのか曖昧になっているため、修正をお願いしたい。

(委員) 19ページの「人材育成の方向性」に、組織の新陳代謝と書いているが、新陳代謝の意味の中に新規採用のことも入るのか。

(会長) 新陳代謝は、新しいものが入って、古いものを排出していくということを比喩的に言う時に使う言葉なので、新規採用も入っていると考えている。

(委員) 若い方の人材育成が大事だと思うので、そこを十分に検討していただきたい。

(委員) 2ページの「総論」について、「委託化を検討すべきである」ではなく、「委託化を進めることを検討すべきである」としてはどうか。現在の改善実施計画で示した50%委託化は、ドラスティックな改革であったと思うが、評価推進会議のアンケートを見ても、委託と直営でそれほど差がなく、健全な民間業者が育っており、上手くいった改革と評価できる。そうであれば、今後、さらに委託化を進め、より民間業者を育てることも京都市の大きな役割だと思う。

(委員) これまで委託化を進めてきた財政効果が相当ある訳だから、方向としては委託化を進めるということではよいのではないか。ただし、100%委託してしまった場合に問題が生じたりするので、直営で守るべきところを議論してきた。どの部分を公が担い、なぜ公がやらないといけないのかということを確認にすることによって、どこの部分を委託できるか整理ができ、より委託化を進められると思うし、そうした議論をしてきたはずである。

今回は、今後のごみ収集業務の在り方について議論してきたが、全ての業務について点検、見直しは常に必要である。必要な業務に人材と資源をうまく集中していくというのが都市経営の基本であるため、そのような点を考慮して委託を進めてほしい。

(委員) 2ページの「総論」について、「更に委託化を進めることを検討すべきである」と修正するという事に異論はない。

(委員) この間、50%という数値目標があったからここまで委託化が進んだのであって、この検討会議では数値目標まで示さないということであれば、委託化を進めるという方向性だけは出しておかないとこれ以上進まない可能性がある。

(会長) 委託化を進めるという方針には2つの側面があるという意見をいただいた。一つ

目は、50%委託化を行った結果、公は刺激を受け、良い意味での公民協働の形が構築でき、これまで良い方向を示したことから、今後も委託化を進めるべきであるという意見。もう一つは、委託化により相当な財政効果が生まれたことから、より政策的な経費に財政を運用するために委託化を進めるべきという意見。

そして、公民の良いバランスを保つためには、点検しながら、問題が生じればどこか問題かをチェックして、民間委託を進めていく必要があると思う。

(委員) 今後の在り方については、当然徹底した行財政改革の視点で検討していかなければならず、災害時など、公が責任を持ってきちっとやるべきことについては議論できた。それを踏まえ、直営は必要最小限を維持するとともに、最大限の委託化を目指していくという方針が良いと思う。

(委員) 目標をもって見直しを行うことは重要である。これから更に委託化を拡大するということで、会議としては具体的な数値には言及しないが、京都市で中長期的な目標を立てる必要があると思う。その中で適宜点検を行い、支障があれば修正するなど、柔軟に対応すべきであると思う。

(委員) 委託化を進めていくために、数値目標があればそれに向かってどんどん進めることができるが、数値目標がない場合、どのように対応していけば良いのか。ただ漠然と進めるのではなく、具体的な数値目標があった方が良いのではないか。

(会長) 数値目標について、最終的にどこに落ち着くかというのは判断が難しいと思う。当会議では出さないが、政策的な目標は必要であると思う。

(委員) これからは、職員の年齢構成ややるべきことを踏まえたうえで、単純なごみ収集業務だけでなく、業者を管理監督するなど、広い視野で業務を行う職員が必要になってくる。技能労務職員の位置付けをきちっと考えてから採用計画や、目標を立てていただきたい。現状分析等を行ったうえで、市で一定の数値目標を決めて進めていかないと難しいと思う。

また、災害があったときのために民間業者と協定を結んでおくことも必要である。今は利益だけでなく公共性を担うという業者も出てきているので、そういう業者をより育成していくことが重要である。

(会長) 委託業者においても、京都市の業務を担っているという意識が抜けては困るので、民間業者にも公共性を高めていただくことが必要である。京都市モデルというようなごみ収集業務の公民協働モデルができれば良いと思う。

(委員) 委託業者が緊張感を持って業務を行うことができるよう、委託の内容を評価するモニタリングの仕組みや、指導・監督していくことが大事である。

(委員) 委託業者が緊張感を持たずにごみ収集を行うと、安かろう悪かろうになってしまう。台風 18 号の際に、無料で手伝いに行くと申し出てくれる業者もいたので、そのような業者を育ててほしい。

(会長) 本日は、今後のごみ収集業務の在り方について、検討会議として最終の議論を行ったが、委員の皆さんから積極的な意見をいただいたと思う。これを踏まえて、最終的な文言等の整理・調整は私と事務局に御一任いただきたいと思いますと考えているが、いかがか。

(委員) 異議なし。

(会長) それではそのようにさせていただきます。

3 閉会